

健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会

第26期・第4回議事録

日時：令和6年9月23日（月）10:00～12:13

場所：オンライン会議

出席者：西村ユミ（委員長）、森山美知子（副委員長）、井上智子、大久保暢子、坂下玲子、亀井智子、神原咲子、真田弘美、田高悦子、手島恵、仲上豪二郎、法橋尚宏、三重野英子、山本則子、吉沢豊予子、綿貫成明、浅野みどり、片田範子

欠席者：熊谷晋一郎、新福洋子、中村征樹、永井由佳里

【報告事項】

1. 総会・第2部(生命科学)および委員会等からの報告
2. 前期に発出した報告、及び周知について
 - ・ 令和5年健康・生活科学委員会 看護学分科会「持続可能な社会に貢献する看護デジタルトランスフォーメーション」及び「With/after コロナ時代の地元創成看護学の実装」の報告書概要について説明がなされた。

【審議事項】

1. 第1回公開シンポジウムについて
 - ・ 令和7年1月11日（土）開催予定の「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材」の概要について説明がなされた。オンデマンド配信は予定していないが、可能な限り周知できるよう録画を行い、共催の日本看護系学会協議会の協力も得ながら配信する（検討）。第1回シンポジストは、山本委員から森山副委員長に交代する。
2. 第2、3回公開シンポジウムについて
 - ・ 第2回目は複数職種の配置や経費などについても議論する必要があること、人口減少の現実を多職種皆が知識として共有出来ていることが重要であること、これらのシンポジウムは、前期分科会の成果である地元創生看護学ならびにデジタルトランスフォーメーション（DX）と関連するの
か、DXを推進するには、看護職以外に異分野の職種とどう連携していくかの議論と市民の声も取り入れる必要があること、多職種の連携・協働の前に多職種の実践モデルの提示が必要である
こと等の意見が出された。
 - ・ 第1～3回のシンポジウムについて、班分けを行い推進する意向が出された。
3. Community-based participatory research (CBPR：コミュニティを対象とした参加型研究)
 - ・ CBPRの看護研究における重要性を鑑み、原著論文文化を進めるための査読のあり方について、自治体等とのデータの受け渡し・倫理審査（体制）等について、本分科会で検討、提言を行っていく必要があることが話し合われた。

以上